

アメリカの繁栄

1) ニューヨークのウォール街は世界経済、国際金融の中心地になった。

第一次世界大戦前のアメリカ合衆国（以下単にアメリカと書く）は、世界最大の工業国だが、世界有数の債務国だった。大戦中、アメリカは協商国の兵器工場となって巨利をおさめ、借款（戦時債権購入）を提供した。戦後のアメリカは、かつての債務国から世界最大の【1: 】に出世した。アメリカは1923年末には世界の金の2分の1を保有、1929年には世界全体の工業生産の42%を占めていた。工業力と金融力で世界をリードする時代がやってきた。【2: 】という表現もするが、【2】は主に第二次世界大戦終結後、アメリカの圧倒的軍事力がもたらした平和を指すことが多い。

2) 経済界の利益を最優先する共和党の政権が3代12年間にわたってつづいた。

《復習》セオドア・ローズベルト任1901-09 やウィルソン任1913-21 の時代には、独占資本を適度に規制することが常識だった！それが「革新主義」の内容の一つだった。 No.141参照
ところが、今まで見たこともない経済的繁栄の中で、独占資本を適度に規制する「革新主義」は支持を失い、うって変わって、自由放任政策と高率保護関税政策が取られ、事実上【3: 】の動きを野放しにした、と言ってもよい政治が行われた。

経済では世界をリードする存在になったアメリカだが、国際政治の舞台では明らかに中心的存在ではなかった。孤立主義をとる共和党が、国際連盟加盟を訴える民主党を押さえて3連勝したからである。

ハーディング 任1921-1923#29 選挙スローガンは「平常への復帰」

クーリッジ 任1923-1929#30 自由放任政策 選挙スローガンは「黄金の20年代」

フーヴァー 任1929-1933#31 選挙スローガンは「永遠の繁栄」 世界恐慌勃発を理解せず。無策。

その結果、アメリカ合衆国は

①国際連盟への加入を拒否した。ただし、軍縮や不戦条約などの国際協調では、リーダーシップを発揮した。No.174参照

②国内市場を【4: 】で守った。

③イギリス・フランスなど旧協商国が戦時債務の返済を免除してくれるよう要求したが、これを拒否した。そのため、戦後ヨーロッパ経済の復興が遅れたが、1920年代にはドーズ案やヤング案で賠償が円滑に行えるようにした結果、経済復興は順調に進んだ。 No.174※3 参照

3) 「黄金の20年代」（かつてない好景気の1920年代のこと）の輝かしい面

(イ) 女性の政治参加が進んだ。 アメリカは、1920年には【5: 】を認めた。

第一次世界大戦中、多くの女性が軍需生産に協力したことによるとされるが、1869年には全米女性参政権協会が組織されており、女性参政権を要求する運動は粘り強く続けられていた。

(ロ) 「アメリカ的生活様式」（=【6: 】）が成立した。

→ 技術革新 → 大量生産・コストダウン → 大量販売による利益 → 賃金上昇 → 大量消費 →

大量販売は企業利益を増大させ、賃金が増え購買力は増大。さらに大量生産・技術革新が行われ……
富裕層に限らず労働者も以下の①②の消費者になった。

①【7: 】の普及 1920年代にマイカー時代に突入

フォード社はベルトコンベア方式で「T型フォード」の大量生産を行いコストダウンに成功した。わが国はアメリカからスクラップを輸入、兵器を製造。ベルトコンベア方式の量産は1914年が元年。

フォード社は、1914年にハイランドパーク工場内のシャシのアセンブリー・ラインにベルトコンベアを導入した。この時点が、後年、組み立てに関する大量生産 mass production 方式の基本形完成の年とされている。フォード社副社長でこれに貢献したソレンセンは、事実が先で考え方や原理などは後からついてきたと語っている。これはトヨタの「かんばん方式」も同様である。またフォード式大量生産はヘンリー・フォードが主導したものではなく、フォード社内の幹部や技術者の長年にわたる試行錯誤の結果であった。

②【8: 】の普及 電気冷蔵庫、洗濯機、掃除機……大衆消費社会の到来を示すもの。

(ハ) アメリカは文化を発信する側になる。【9: 】と呼ばれる新しい文化であり、複製可能な媒体（フィルム、レコード）、同時大量伝達手段（【10: 】）が大衆文化を家庭や個人に届けた。

①ボクシング、野球など【11: 】が広まり確立したのも1920年代である。

ベープ＝ルースがニューヨークヤンキースに入団したのも1920年である。彼は数多いプロスポーツの一つに過ぎなかったベースボールを、最大の人気スポーツにした事で「アメリカ球界最大の巨人の1人」と評されている。引退時の通算本塁打714本は、ハンク・アーロン、バリー・ボンズに破られたが、通算長打率 .690と通算 OPS（出塁率と長打率とを足し合わせた値）1.164は現在も破られていない世界記録。

②【12: 】の発達 ハリウッド映画の発展は1920年代。「モダンタイムス」は1936年
当時はWASP（ワズプ 後掲）でないスターになれなかったため、多くの映画人が出自を偽った。

③【13: 】 1920年代初頭にはアメリカを代表する音楽スタイルの一つとして、アメリカ国内の大都市に急速に広まった。第一次世界大戦から大恐慌までのアメリカの隆盛期が「ジャズ・エイジ」とも呼ばれるゆえんである。

ルイ＝アームストロングは1923年のデビュー。1924年にはニューヨークでデビュー。1967年には、「この素晴らしい世界（What a Wonderful World）」が世界的なメガヒットとなった

④ウォルト＝ディズニーの【14: 】は1928年アニメ化された。

⑤ミュージカルも1920年代にブロードウェイから始まった。

4) 「黄金の20年代」(かつてない好景気の1920年代のこと)の真っ暗な一面

ロシア革命に抗する保守化の強い流れが背景にある。ただし、ファシズムではない！新中間層(豊かな資本家と貧しい労働者の間に位置する階層)が成立し、アメリカに限らないが、彼らは、不況などでダメージを受けると極端な保守主義にはしることがある。

①人種差別 アメリカ社会の多数派はWASP(ワスプ)=北部白人都市中産階級 White AngloSaxon Protestant 言葉の本来の意味は「プロテスタントのイギリス系白人」

《蛇足》第二次世界大戦の米空母ワスプ(USS Wasp, CV-7)の艦名は「ジガバチ」及び「スズメバチ」の意味。空母ワスプは、漫画『ジパング』(かわぐちかいじ著)の中で20世紀からタイムスリップしてきた海上自衛隊の架空のイージス艦「みらい」の放ったトマホークで撃沈されている(無論史実ではない)。

a) 黒人差別 1920年代【15: 】の復活(オリジナルは南北戦争後) No.140参照
反黒人であるだけでなく反国際主義、反社会主義

b) 南欧・東欧系移民(=新移民)・アジア系移民を差別する風潮。人種的偏見！ No.141参照
1924年の移民法は東欧や南欧からの移民の流入を制限し、アジアからの移民を全面禁止。

②排外主義的な傾向 次の(a)(b)はワスプの中に広くみられる保守的な思想が形になったものとみることができる。

a) かの悪名高い【16: 】 1919.1-1933 ホントは「製造・販売・運搬禁止法」
酒類の製造・販売・運搬を禁止。(貯蔵してある酒や自家製酒を家で家人が飲むのは合法)
酒類の製造・流通を牛耳るドイツ系移民への反感が背景にあったという説もある。
酒類の密造・密売などでマフィアが急成長し、捜査官まで買収した。成長したマフィアは、遺憾ながらアメリカ社会の無視できない存在であり続けている。

映画の題ともなった「アンタッチャブル」(1987年アメリカ映画)とは「買収されない捜査官」のこと。
これより前、テレビ連続ドラマで「ジ・アンタッチャブル」も放映されていた。

アル=カポネ一家(イタリア系移民) VS エリオット=ネスとそのチーム(財務省酒類取締局)
フーバー大統領が「高貴な実験」と表現した13年間の禁酒法時代は多くの教訓を残した。

《蛇足》なぜ喫煙を法律で禁止しないのか……諸君もご存じの通り、喫煙はもちろん受動喫煙も高いリスクを含み、喫煙は「時間をかけた自殺」に等しく、また高校生諸君にとっては「未来の配偶者と未来のわが子に対する裏切り」だと断言してはばからない。ならば、なぜ喫煙を法律で禁止しないのか?その答えは前掲禁酒法時代のアメリカにある。それは一種の大きな規模の社会実験でもあった。日本で禁酒法と同じようにタバコの製造・販売・運搬を禁止(貯蔵してあるタバコや自家製タバコを家で家人が喫煙するのは合法)したと仮定すると、大富豪の喫煙者は自分で栽培するだろう。そして大きな資金力をもつ暴力団は過疎の限界集落などで密かに栽培したり密輸入したりするだろう。これが地下で流通して莫大な利益を彼らにもたらし、暴力団が和製マフィアに成長して日本社会でも無視できない存在になってしまう危険性がある。したがって、喫煙を阻止することは教育や啓発によるしかないのだが、文科省はじめ公的機関の取り組みは充分とは言いがたい。

b) 社会主義勢力抑圧の強い傾向

1920年~1927年 の【17: 】

イタリア系移民でアナキストとされるサッコとヴァンゼッティが、殺人事件の犯人とされ、保守的風潮の中、十分な証拠もなく死刑判決が下された。世界中から抗議の声が上がったが、1927年に執行された。

2011 法政大学(抜粋・改変)

第一次世界大戦後、アメリカは国際社会における存在感を格段に高めることとなったが、その背景には複数の要因が作用していた。第一に、アメリカが第一次世界大戦を通じて債務国から債権国へと転じ、国際金融市場で中心的な位置を占めるに至ったことは、大きな意味を持った。アメリカは第一次世界大戦中に、連合国に対して軍需品と借款を提供し、連合国の戦時経済を支えた。また終戦後に、イギリスやフランスなどが約120億ドルにもものぼる戦債の返済免除を求めると、アメリカはそれを拒否し、あくまで返済を求めた。そこで、戦争で経済が疲弊しきっていたヨーロッパの連合諸国は、戦債の返済に1で定められたドイツからの賠償金をあてようとした。するとアメリカは、自国資本をドイツに貸与することなどを骨子とした2をドイツの新賠償方式としてA年に成立させ、その後1929年にも、ドイツの賠償総額を削減し、支払い期間を延ばす3を成立させた。こうしてアメリカは自国の経済力を梃子に、ヨーロッパの連合諸国に対する発言力を拡大したのである。

第二に、アメリカが軍事力を徐々に増大させていたことも、同国の国際社会における存在感を増す要因となった。アメリカは、第一次世界大戦で200万人を超える兵員を国外に送り出し、連合国側の勝利に貢献したので、その軍事力は、大戦の帰趨を左右したものとして、広く世界に認められることとなった。このような背景の下、アメリカが主導する形でB年から1922年にかけてワシントン会議が開催され、海軍軍備制限条約、4、九カ国条約からなるワシントン体制が成立した。

そして第三に、アメリカの金融面および軍事面におけるパワーの増大を下支えしていた同国の経済発展を、重大な要因として挙げなければならない。アメリカでは、自動車、化学、電気産業といった新たな産業が勃興した。1921年から3代にわたって共和党から選出された大統領たちは、大企業を重視する経済政策と、国内市場を守る5政策を展開した。以下割愛

問1 文中の空欄AからBに入る西暦年を記せ。(原問はマーク式)

問2 文中の空欄1から5に入る語句を記せ。(原問はマーク式)

問4 下線(a)について、つぎのうち、この条約で定められたイギリス・アメリカ・日本・フランス・イタリアの主力艦保有比率はどれか。一つ選べ。

a 5・4・3・1.5・1.5 b 5・4・3・1.75・1.75 c 5・5・3・1.67・1.67 d 5・5・2・1.5・1.5

問5 下線(b)について、つぎのうち、この条約の非締約国はどれか。一つ選べ。

a オランダ b ドイツ c ポルトガル d イタリア e ベルギー f イギリス

問1 A:1924 B:1921 問2 1:ヴェルサイユ条約 2:ドーズ案 3:ヤング案 4:四カ国条約 5:高関税 問4 c 問5 b